ぶんけい
教育ほっとにゅーす
かわら版

教育の小径（こみち）

No.212
2026 June
6月号

(一財)総合初等教育研究所参与
北 俊夫先生

今月のことば

八方美人（はっぽうびじん）

誰とでも愛想よく付き合うことやそのような人のこと。「八方」とは8方位のことで、あらゆる方角を意味します。一般に軽蔑した表現に使われます。

保護者会のもち方 ―求められる運営方法の改善―

- 保護者会には、学校や教師が保護者に子どもや教育のことを「報告・連絡・相談」し、両者の信頼関係を築くという重要な狙いがあります。
- 教師と保護者がともに和やかな雰囲気のなかで意見や要望を出し合えるよう、保護者会の内容や進行方法を工夫します。

今月の記念日

6月5日

熱気球記念日

１７８３年のこの日、フランスのモンゴルフィエ兄弟が発明した熱気球で行った実験が、世界で初めて成功しました。

保護者会の狙いは何か

学校では、保護者会が定期的に開催されています。授業参観とセットにしていることもあります。かつては「父兄会」や「父母会」などといわれていました。学校が保護者会を開催する狙いは何でしょうか。

保護者会では、まずさまざまな教育活動に対する学校の考え方や学級担任の指導方針、授業での子どもの模様を報告します。日ごろ、学校通信や学級通信などで伝えていますが、直接説明することでより正確に伝わります。

次に、今後の授業や行事などの予定を伝え、家庭で事前に準備してほしいことなどを連絡することもあります。もちろん「連絡帳」やプリントやメールなどで伝えることもできます。

さらに、保護者に意見や意向などを求める相談もあります。これは、学校として判断するまえに、反応や受けとめ方の傾向を把握するためです。協議し決定することではありません。

このように、保護者会は「報告・連絡・相談（ほう・れん・そう）」の場として重要な役割を担っています。

保護者会では、学校や教師の側から一方的に話をして終わりにするのではなく、保護者から自由に意見が出されるよう配慮します。保護者会は、情報を提供し合い、相互の信頼関係を築くことにも狙いがあります。保護者会は担任と保護者が子どもの教育の考え方や方法を共有する重要な場です。

保護者会の進め方

学級での保護者会は学校の行事として実施されますから、進行は基本的に学級担任が行います。

冒頭では、各教科等の授業の内容や進行状況、学校行事の模様など、教育活動について説明します。子どもたちの活躍の様子や成長の状況を具体的に話すことで、保護者は学校や担任に対して安心感を抱きます。

保護者会に先立って授業参観が行われたときには、参観した感想などを述べていただくとよいでしょう。

後半では、保護者に日ごろ学校や子どもに対して思っていることなど意見や質問を求めます。例えば家庭で子どもの言動などにどのような変化がみられるか。担任に対して確かめたいことは何かなどです。その多くは、自分の子どもに焦点が当たっていますから、その場では一般論としての回答になるでしょう。個々の子どもに即して伝えたい事項がある場合には、終了後に時間を設けます。

何より重要なことは、確かな情報をもとに丁寧に答えることです。即答できない場合には、校長とも相談して、後日お知らせする旨を、誠意をもって伝えます。この場の進行をＰＴＡの役員に依頼することも考えられます。

実施上留意したいこと

保護者同士で、互いに名前がわかると、話し合いが和やかに進みます。事前に名札を用意したり、自分の子どもの座席に座ってもらったりすると、担任も名前を早期に覚えることができます。座席をコの字や口の字の体形に配置するなど工夫することも大切です。

説明用のプリントを配布する場合には、事前に学年で協議し、管理職の目を通しておきます。欠席した保護者には後日子どもを通じて配布し、保護者会の内容を伝えます。

出欠の状況を把握するため教室の入口などに名簿を置き、保護者が印を付けるようにしている学級もあります。保護者会への出欠状況は保護者の個人情報に当たりますから、担任が観察しながら記録するようにします。

子どもの教育は保護者の理解と協力を得ながら、一体になって行うものです。保護者会を意義のある内容にし、和やかに運営したいものです。

観を考える シリーズ

教材とはいかなるものか

今月は「教材観」についてです。教材は、目標や内容と子どもとのあいだに位置しています。教材は学習内容を教え習得させる際の材料です。子どもたちは教材に関わりながら、学習内容を習得していきます。教材は学びの対象です。学習内容そのものではありません。「教材を」教えるのではなく、「教材で」「教材をとおして」学ばせるという姿勢をもつことが大切です。

一般に教材について語るとき、それは教える教師にとっても、学ぶ子どもたちにとっても、すでに「あるもの」として受けとめられています。教材が掲載されている教科書を使用したり、教師が教材を準備したりしていますから、当然の受けとめ方です。これは伝統的な教材観といえます。

授業において、子どもたちは教師によって用意された教材に関わりながらさまざまな反応をします。具体的には発言や活動として表出されます。これらの内容はいずれも授業のなかで新たに生み出されるものであり、指導案に記述されることはあまりありません。これは、「もうひとつの教材」といえます。これらは新たに生み出されたという意味で「なるもの」です。

教材には、授業に当たって教師が予め用意する「あるもの」と、授業中に新たに生まれる「なるもの」があり、教材を広く捉える視点が重要です。

教材研究を進めるとき、教材が目標の実現や内容の習得にどう結びつくのかを検討するだけでなく、子どもの学びや成長にとってどのような意味や役割をもっているのか。教材のもつ価値や教材を学ぶ意味を子どもの側に立って吟味・検討することが重要です。

教育時事 教育の動向

国語に関する世論調査（2）

前月号で、文化庁が令和３年度に実施した「国語に関する世論調査」の結果を一部紹介しました。調査では、慣用句の意味についても尋ねていますので、その一部を紹介します。

「姑息」とは本来「一時しのぎ」を意味しています。ところが「ひきょうな」と答えた人が７３．９％もいました。本来の意味を理解していたのはわずか１７．４％でした。日常生活のなかで「姑息な人」などと使われているからでしょうか。また、「割愛する」とは、「惜しいと思うものを手放す」ことです。これを「不必要なものを切り捨てる」と答えた人が６５．３％でした。本来の意味を正しく理解していたのは２３．７％でした。

このように、調査から慣用句に対して本来の意味で正しく使われていない実態が明らかになりました。

また、調査から、過去には使われていなかった日本語が使われ、浸透していることがわかりました。例えば「なにげなく」というところを「なにげに」と使用する人は４７．１％。「中途半端でない」ことをいい表すとき、「半端ない」を使う人は４６．４％でした。

日本語の使い方が社会の変化に伴って変わってきました。こうした新しい現象に、同調したり違和感をもったりする人もいるでしょう。本調査結果から、国語科で慣用句や用語など言葉の正しい使い方を指導することがますます大切になってきます。

連載 教育界への独りごと vol.8

教育の責任は誰がとる？

製造物責任法では、製造物の欠陥により、損害が生じた場合の製造業者の責任について定められています。損害とは不利益を被ったことです。

学校教育で教師はあらゆる場面で目標を設定して指導しています。目標の実現のために最大限の努力をしています。こうした状況のもとで、もし目標が実現されない子どもがいたとき、教育の責任は誰がとるのでしょうか。

これまで教育や子どもについての話のなかで、「先生に指導されたうちの子どもがテストで３０点しかとれなかった。この責任をどうしてくれるのか」と、保護者が訴えてきたという話は聞いたことがありませんが、テストで３０点しかとれなかった責任は、どこにあるのでしょうか。

「あなたが勉強しなかったからだ」と一蹴され、子どもが責められるのでしょうか。教師の指導力不足を指摘され、教師が責任を負わされるのでしょうか。それともわが子の教育に第一義的な責任を有する保護者にあるのでしょうか。教育の現場では責任の所在が曖昧だといえます。子どもの教育は、本人の努力はもとより、教師の指導や援助、保護者のしつけや養育、友だちとの関わり合いのなかで、さまざまな人たちの影響を受けながら総合的に行われています。そのため、責任の所在を特定することができないからでしょうか。

たとえとして適切かどうかわかりませんが、教育における「製造物」は子どもであり、「製造業者」は教師や保護者です。現在の教育システムでは、明確な過失による事故や事件などを除いて、教育の結果に対する責任が明確になっていないのが現状です。　（H）

INFORMATION 2026年度 ぶんけいテスト・ドリル採用 無料特典

児童の成長を学習・生活の両面から伝えられる新しい帳票 まなびレポート

業界初 児童のがんばりをスタンプで表現

ひと目でわかりやすく、文章を考えなくてもOK！

×

先生用AI

先生用AIで生成

いつも元気いっぱいで、進んで挙手し、意見を述べる姿が印象的でした。

スタンプを選ぶだけでAIが所見文例を自動生成！

「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂ホームページからお読みいただけます。

お知り合いの先生にもお勧めください。

ぶんけい　教育の小径　検索

編集後記

子どもにとって、学校は家庭と同様に長い時間を過ごす場所になります。学校で見られる姿と家庭の中で見られる姿を相互に理解しあうことで、子どもの全体の姿が見えるようになり、関わり方もまた変わってくるかもしれませんね。学校と家庭が連携しあうことで、個々に合った指導・コミュニケーションの下で、子どもたちがのびのびと成長していくとよいですね。　（M記）

ぶんけい きみの手に、みらいの夢を。

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発　　行：株式会社文溪堂
発 行 日：2026年6月1日

◎定期送付の学校や先生方へ　送付先・部数等に変更のある場合は、右記にご連絡ください。　株式会社文溪堂 営業部 営業企画課　FAX.058-322-2224　Eメール bunkeido@bunkei.co.jp

◎「ぶんけい教育の小径」で検索すると、「教育の小径」のすべてのバックナンバーがご覧いただけます。